

海とともに陶芸に生きる

陶芸家 高井 晴美さん

陶芸家として日展や日本現代工芸美術展など多数の入選歴をお持ちで、国内外で数々の賞を受賞。生まれ育った舞鶴（成生）に開いた「成生窯」を拠点にご活躍中の高井晴美さん。文化事業団理事や赤れんがフェスタin舞鶴実行委員会実行委員長、舞鶴市展懇話会委員など、幅広く文化振興にもご助力されています。陶芸の魅力や作品に込められた思いなどをお伺いしました。

陶芸の魅力

土に触れると心が安らぎ、ほかのことはすべて忘れて「作ること」に没頭できます。完成までには、いくつもの工程があるので時間もかかり、途中でヒビが入ったり、なかなか思ったとおりにならない難しさもありますが、そこが面白いところでもあります。

すね。色や焼くことなど、やってみたいと分からない不確定な要素が多いですが、完成すれば同じものは世界に2つとないので、作る喜びが大きく奥深いものです。

私が教える陶芸教室でも、年配の方も童心に帰ったように一心不乱に土と向き合っている様子です。

歩む道の選択

子どもの頃から絵を描くことが好きで、何か創作することを仕事にしたいと思っていました。

高校時代は吹奏楽部に入部し、音楽も大好きでしたが自分には一人でコツコツと制作できるものが向いていると思い、陶芸の道を目指すことを決めました。それからは近隣のまちの窯を訪ねたり、高校の美術の先生に「ブッサン」を習ったりして、京都芸術短期大学校に入学。卒業後は陶芸



▲日展入選作品「滄望」

家の先生のもとで8年間学びました。私の歩みたい道は自分の表現方法で作品を創造してゆく「作家」になることだと確信し、日展や日本現代工芸美術展などに意欲的に挑戦してきました。

平成6年に独立。舞鶴に戻って「成生窯」を開き、陶芸作家として新たに活動を始めました。

海の作家

私は本当に海が大好きなんです。時間とともに刻々と変化する水面の色や光の形、波の優しさや激しさ…海にはたくさんの魅力があり、誰にも希望を与える力があると思います。

工房の目の前に広がる成生海岸の景色を眺めながら、そして波の音を聞きながら、「海から受ける感動や思いを作品で表現していきたい」「海の作家になりたい」と強く思い、作品を作ってきました。

震災がもたらしたこと

東日本大震災が起こり、津波が人やまちをのみ込みました。大好きな海がもたらした災禍は、私にとって、とてもショックなことで、心を痛めました。

何か自分でもできることはないかと考えて、日常で使える食器などを作った。いろいろな形で被災地への支援活動をする中で、「復興に向けて頑張っしてほしい」「海からの希望を伝えたい」という気持ちで作品を作るようになりました。すると、これまでよりもっと深く「魂」が入っていくように作品が変化していきました。

これから

私にとつての陶芸とは、作品に思いを込め、作品を通してその思いを誰かに受け取ってもらおうという、自己表現の手段です。創作は1回1回がゼロからの出発で、作品が出来上がれば、そこに込めた思いは作品として残りますが、また新しい挑戦が始まります。これからも、その時々の方が作ることで最高のものを全力で作っていきたいと思っています。

高井晴美さんの入選作品も展示されています
第45回 日展京都展
【期間】1月19日(日)まで(1月20日は休館)
【場所】京都市美術館(京都市)

